

第三十七回 台東薪能 平成二十八年九月六日(火)午後五時四十五分開演 於・金龍山浅草寺境内(雨天時 浅草公会堂)

演目のあらすじ 能楽評論家 児玉 信

演目の解説 お話 児玉 信 (能楽評論家)

〈火入れ式〉 木遣り・まとい 新門齋頭連中

番組

能

ツレ 鈴木 啓吾

シテ 観世 喜正

高砂

ワキ 森 常好

ワキツレ 森 常太郎

大鼓 柿原 弘和
小鼓 鷗澤洋太郎

大鼓 観世 元伯
笛 一噌 隆之

間 山本 凜太郎

後見 奥川 恒治
駒瀬 直也

地謡

中森健之介 遠藤 喜久
桑田 貴志 中森 貫太
佐久間二郎 弘田 裕一
永島 充 中所 宜夫

狂言

文山立

シテ 山本泰太郎
アド 山本凜太郎

〈休憩〉

能

シテ 坂 真太郎

鐵輪

早鼓之伝

ワキ 館田 善博
ワキツレ 則久 英志

小鼓

大鼓 柿原 弘和
小鼓 鷗澤洋太郎

大鼓 観世 元伯
笛 一噌 隆之

間 山本 泰太郎

後見 遠藤 喜久
弘田 裕一

地謡

菅野 貞男 奥川 恒治
小島 英明 中所 宜夫
佐久間二郎 駒瀬 直也
鈴木 啓吾 中森 貫太

能『高砂』

春まだ浅いころ、都見物を思い立った肥後一宮阿蘇神社の神主は、途中、高砂の尾上の松と歌に詠まれて名高い播州高砂の浦に立ち寄った。と、そこへ老夫婦が現れて一本の松の木陰を掃き清め、これこそ高砂の松と教える。やがて神主に問われるまま、老夫婦は海を隔てた高砂・住之江にある松を「相生」と呼ぶ謂れを語り、遠く離れていても心が通じあうことが夫婦和合の秘訣と語る。老夫婦は、実は高砂・住之江の松の化身であった――

常に緑成す松の目出度さを説いて天下の長久を祈る、祝福の能です。

狂言『文山立』

旅人を追って出た二人の山立(山賊)。ところが勘違いから獲物を逃がしてしまい、追剥にしくじったのはお前のせいだ、などと言いつ争いを始める。挙句は果たし合いの騒ぎになるが、この勇ましき潔さを誰にも知られずに死ぬのは惜しいということになり、妻子に宛てて書置きをしたためることになった――

女房や娘子供の泣きわめくさまを思い浮かべ、二人が仲直りするまでを面白く描きます。

能『鐵輪 早鼓之伝』

いつまでも一緒に暮らそうという約束を破って、夫は新しい妻を迎えた。捨てられた妻の嘆きは、やがて激しい怨みとなる。あの世に行つてからでは遅い、この世に生きているうちに鬼となつて夫と女に復讐する――と誓い、呪詛神で名高い貴船に丑の刻詣をした。願いは聞き届けられる。鬼の姿となつた妻は、夫と女の枕許に現れると女の黒髪を手に絡め、凄まじい後妻打ちを見せた――

嫉妬深い神だという、宇治の橋姫伝説を踏まえた物語です。